

事業委員会では、十一月十一日、伏見稲荷大社様の参集殿をお借りしまして、平成三十年カレンダーの発送作業を行いました。これは毎年、関係神社やまた協賛業者の皆様をはじめ氏子・崇敬者の皆様など各所・各家庭において、その一年を彩るものであってほしいと思

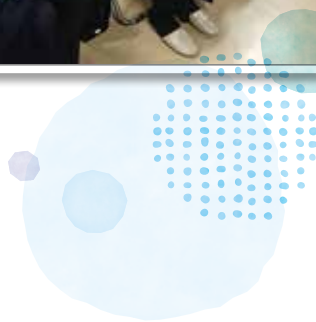
事業委員会

平成三十年カレンダー作製



酒蔵という現場においての本研修会は、神社になくはならない清酒を深く知るとも貴重な時間となった。

(賀茂御祖神社 田中明仁)



ご協力いただきました丹嘉様に感謝を申し上げますとともに、このカレンダーが皆様のお手元で鮮やかに彩

たしました。唯一の窯元である「丹嘉」様のご協力のもと撮影を行い、さらにイラスト加工を施すことにより、より立体的にその鮮やかな美しさを表現いたしました。



平成三十年のテーマとして取り上げたのは、伏見人形です。江戸時代後期に最盛期を迎えた最も古い郷土玩具であり、全国で九十種類



いを込めて制作しております。カレンダーには各神社の祭典日を掲載し神道教化を進めるとともに、毎年テーマを設定し図案を掲載することにより、視覚的に日本の伝統を表現しています。

親睦委員会

**親睦委員会主催研修会
「松井酒造株式会社 酒蔵見学」**

春の風が吹き抜けた三月一日の夕刻、親睦委員会主催の研修会が行われた。

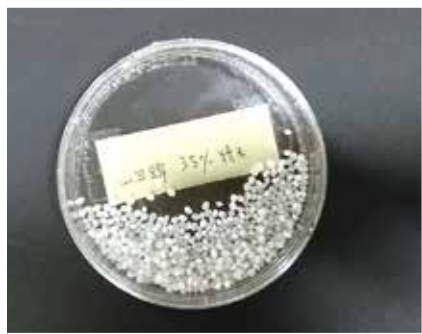
川端一条に蔵を構える、享保十二年(一七二六)創業の松井酒造株式会社様にて、十五代松井治右衛門先生より、酒造行程の説明と蔵のご案内をいただいた。会員や巫女を合



せ、二十六名の参加者が席に着くや否や、「神蔵純米酒」が注がれた試飲コップが配られて幕が開けた。松井酒造は酒処兵庫の灘で創業し、その後京都に移るも道路の拡幅や、地下鉄工事により移転を余儀なくされた経緯、それでも洛中に蔵を残そうと今日まで奮闘されてきた日々、蔵元の並々ならぬ思いに触れることが出来た。



と、順を追ってお酒の造り方の説明頂いた。その中で、よく目にもつとも理解していなかった言葉の疑問も解決した。例えば「生酒」は搾った後に発酵を止める火入れを一切行わずに出荷したもので、火入れを行う回数やタイムイングの違いで「生貯蔵」などに分けられる。また、「特級酒」などの分類は、かつて国税庁で認可されたものだが、おいしいお酒を安く提供したいという当時の蔵元たちの考えから、届けを出さず二級酒に留まる現状が続いたため平成四年に廃止されたそう。



発酵の続くもろみの香り、次から次に頂戴した試飲により、和やかな雰囲気の中にも意義深い時間となった。ほろ酔いで多くの質問が飛び交い、神様に捧げる御神酒の価値を再認識したところで、あたくも一次会中締め後の様子ながら和気藹藹と研修会は閉会した。



りますことをご祈念申し上げます。

(大原野神社 杉原淳二)

事業委員会

事業委員会主催研修会 「日本の色を染める」

去る五月二十二日、平安神宮記念館ホールにおいて、事業委員会主催による研修会が開催されました。講師に染色家の吉岡更紗先生をお迎えし、「日本の色を染める」と題してご講演を賜り、三十七名が



参加しました。

吉岡先生は、京都で江戸時代から続く染屋「染司よしおか」の六代目に当たり、絹・麻などの天然の素材を自然界に存在する染料を用いて染色しておられます。石清水八幡宮の「石清水祭」の供花神饌、東大寺二月堂の「修二会」や薬師寺の「花会式」の造花用和紙等々の調製に携わっていらつしやいます。

ご講演では、①明治時代か

ら始まった化学染料の使用を取りやめた完全天然由来の染料を用いる「染司よしおか」の歴史 ②青森県「三内丸山遺跡」の出土品のポシエットにみる縄文時代から続く日本の染色史 ③飛鳥時代から受け継がれている染料紫草(紫色)・蓼藍(青色)・紅花(赤色)・刈安(黄色)等々の紹介 ④染色作業の映像・画像を交えて寺社でのお仕事についてご講演くださいました。



続く質疑応答では、席上からのマイクを用いてのやり取りではなく、先生のもとに参加者が集う囲み形式であったため、良い意味で忌憚りの無い質問があり、参加者の熱量を直に感じました。先生は、「浅葱」色の幅広さの由来や「黄櫨染」の色味について等の質問に対して、眼前に二つ素材を提示されて、丁寧にお答え下さいました。

講演を通して感じたのは、移りかわる四季や自然美・光・水・風、その彩りを写した日本の色は、長い歴史の流れの中で育まれてきたということ。染色の伝統を担う先生の藍色に染まった爪を拝見して、随神の道に通じる部分を感じました。

(野宮神社 杉本裕二)

渉外委員会

京都府氏子青年連合会との交流会



渉外委員会主催による「他団体との交流会」として、京都府氏子青年連合会の皆様との交流会が三月十七日「天壇 祇園本店」にて開催された。当日は二十八名が参加し、先ず六人部会長による挨拶。次に京都府氏子青年連合会武本会長に乾杯のご発声を頂き、交流会は開始された。今回の交流会の席はくじ引きで決め、各テーブルは焼肉やお酒を楽しみ

ながら懇親を深めていった。

氏子青年会の皆さんは、それぞれ奉仕されている神社において「氏子」という視点からの考えを持って活動している事を熱く話して下さい、氏青を持つている神社の神職も、持っていない神社の神職もとても興味深く交流する事ができた。

今回の交流会を通して、神職と氏子の違いはあっても、神社に関わる青年同士連携を取り、今後もお互いの特色を伸ばしながら共に力

を合わせていきたいと感じた。

閉会は高田副会長による締めめの挨拶により、交流会は盛況の中、閉会となった。

(京都府神社庁 稲永麻衣)



渉外委員会

チャリティバザー

去る五月二十五日、北野天満宮に於いて渉外委員会主催チャリティバザーが開催された。

当日は天候に恵まれ、多くの方がバザーに足を運んで頂いた。ご年配や主婦の方が多く、中にはこのバザーを毎年楽しみにして頂いている方も居られ、当会の活動が周知され根付き始めている事を感じることができた。

一方で訪れる方の中に外国の人の姿も目立った。旅行者の増加は喜ばしい事であるが、外国の方に対してチャリティの主旨を伝えることができず、当会の活動を広めていく為にも、対応策を考える必要があると感じた。

京都府の交通安全推進事業に寄付する事を目的としたチャリティバザー。平成元年より恒例事業となつているこの活動が絶えることなく広がり続け、笑顔と希望に満ちた未来を支えることを切に願う。



最後に、境内をお貸し頂きました北野天満宮様、バザー用品を提供して下さいました関係各位、そしてチャリティバザーにお越し頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

(八坂神社 中村隆人)



渉外委員会

ヤチマタ募金活動



この度私は、一月二十五日に北野天満宮様にて行われた京都府神道青年会渉外委員会主催である「ヤチマタ募金活動」に奉仕させて頂きました。

社務多忙の時期ではございますが京都府神社庁職員、当会会員、京都府氏子青年連合会の皆様、総勢二十名近くが参加致しました。北野天満宮様には、初天神のお忙しい中、毎年ご協力頂いております。このような多数のご理解とご協力で成り立っていることに、ヤチマタ基金に対する

いかとも思われましたが、やはり天神様のお力と皆様の熱意で吹雪の寒さを跳ねのけ、結果的に前年度を上回る募金が集まりました。同時に、大勢の方々が、日頃から交通安全の意識を持っておられる事に気づかされました。

このヤチマタ募金活動を通して、自分自身を含めた更なる交通安全に対する意識向上と、ヤチマタ基金活動の重要性を感じました。交通事故の被害に遭う人が少しでも減少する事を祈りながら、次回の活動にも積極的に参加していければと思っております。

(石清水八幡宮 林大道)



する皆様の熱意を感じさせられました。しかしながら、そんな熱意とは裏腹に、前日からの大寒波の影響で少し積雪が残る上、凍えるような吹雪となり非常にきびしい状況下での活動となりました。このままでは例年の募金額を下回るのではな



組織委員会

『洛声』第二一六、二一七、二一八号発行

組織委員会では会員の近況を始め様々な情報をお届けする機関誌『洛声』二一六号、二一七号、二一八号を発行致しました。発行に当たり各会員皆様のご協力にお礼を申し上げますとともに、引き続き情報をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

日々の社務で感じたこと、会員同士の交流について、或いは紹介したい事柄などありましたら、お近くの組織委員にまでお知らせください。執筆は苦手だけど、この情報を載せてほしい。などでも構いません。お寄せいただきました情報や記事をもとに、組織委員会で紙面を作製し、会員相互の組織力向上に努めてまいり所存でございます。これからも紙面の内容を充実させ、多くの方々に読んでいただける『洛声』を目指してまいります。

昨今の気象変動により京都においても季節外れや記録的な天候が相次いでおります。会員の皆様にはご自愛いただき、奉務に励みご活躍されますようご祈念いたします。

(城南宮 奥将人)



を守る神様の御名前からつけられたものです。社務を終え、日が暮れてからの活動ということもあり寒さで体力を奪われていく中、皆様からの気持ちにより、参加した会員の凍えた身体は温められ、皆大きな声で募金を呼びかけました。

両日ともに集められた募金は、京都府神社庁を通じて京都府に寄付され、交通安全推進事業のために使われます。

最後になりましたが境内をお貸しいただきました北野天満宮様、吉田神社様に心より御礼申し上げます。

(御嶽教末廣教会 北川真喜子)

二月三日、節分で賑わっている吉田神社様の境内をお借りし、京都府神社庁主催「ヤチマタ募金活動」が実施され、当会会員、またOB先輩を合わせ十六名が参加し、OB先輩のご子息、ご息女も応援に駆けつけてくださり、大人数での開催となりました。

この「ヤチマタ」という名前はヤチマタヒコ・ヤチマタヒメという災厄を防ぎ人々の安全を守る神様の御名前からつけられたものです。



近畿地区報告

一・二七御堂筋パレード

去る一月二十七日に国旗掲揚推進事業である『一・二七御堂筋パレード』が開催された。

この事業は、一月二十七日の「国旗制定記念日」にあわせて、国民の祝祭日にどの家庭でも国旗が掲揚されるようお願い御堂筋をパレードして呼びかけるものであり、毎年一月二十七日に日本会議大阪主催・大阪府神道青年会協力で開催されており、神道青年近畿地区連絡協議会の事業のひとつにも指定されている。



当日、午後二時三十分到大阪市中央区に鎮座する坐摩神社境内に集合し、パレードに先立ち出発式が執り行われた。まず大阪府神道青年会新海会長にあわせて坐摩神社を参拝し、参加者全員で国歌を斉唱した。次に日本会議大阪運営委員長である神道政治連盟大阪府本部長の衛藤様より主催者代表

の挨拶を戴いた。その後、小旗の振り方などの練習や諸注意連絡が行われ、午後三時より大国旗を捧持した神道青年近畿地区連絡協議会田中会長を先頭とし、参加者一同が四列縦隊を組んで出発した。

先導車の搭載のスピーカーから「一月二十七日は国旗制定記念日です。祝祭日には日本の国旗、日の丸を揚げましょう」とアナウンスが流れ、参加者一同は手持つ日の丸の小旗を振り、力強く声高らかに「揚げましょ」と唱和した。道中において



では日本会議大阪や大阪府神道青年会のスタッフが、日の丸の小旗の丸ステッカー、風船を沿道の市民に配布して国旗掲揚を呼びかけていた。晴天の下、本町から御堂筋を通り難波までの約二キロの道を警察指示のもとで約一時間行進し、午後四時ころには難波に到着し解散となった。今回のパレード参加者数は、昨年を超える約三百名（神道青年会会員、各関係諸団体、一般等）であった。沿道を行き来する多くの人々に国旗掲揚の推進のアピールができ

近畿地区親睦ゴルフコンペ

去る三月二十七日、奈良県神道青年会の担当により、神道青年近畿地区連絡協議会「親睦ゴルフコンペ」が奈良県吉野郡吉野町のグリーンデージゴルフ倶楽部に於いて開催され、総勢四十名、当会からはOB先輩、会員計三名が参加した。

当日は晴天に恵まれ暖かく、絶好のゴルフ日和となった。開会式と集合写真撮影に引き続き、各スタートホールでは始球式が行われた。

その後午前九時三十分頃より順次スタートし、ベテランから初心者まで、バンカーと池が多く高度な戦略性が必要とされる名門コースでのプレーを終始楽しんだ。各組に近畿各府県の会員OBがバランスよく振り分けられ、普段関わることの少ない者同士もゴルフを通じて親睦を深めることができた。

プレー後にはクラブハウスで懇親会と表彰式が行われ、個人賞の部では京都府の伊藤千佳比OB先輩が見事第一位となり、あわせてベストグロス賞も獲得という大変素晴らしい成績を残された。伊藤先輩には優勝賞品として高性能炊飯器、ベストグロス賞としてお米十キロがそれぞれ贈呈された。出場者の上位三名のスコアで競われた団体賞の部では、優勝は大阪府、二位は奈良県、そして京都府は伊藤先輩の活躍で三位という結果となり、生島和顕副会長がトロフィー

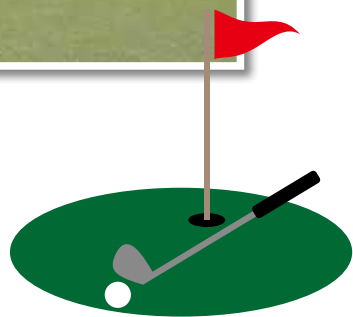
熱い関心を得ることができたのではないかと感じた。最後にこの歴史ある事業に参加できたことに感謝申し上げます。

(向日神社 六人部 是充)

を受け取った。

次年度は滋賀県神道青年会担当で開催される予定であり、当会からも多くの会員及びOB先輩が参加される事を期待したい。

(八大神社 竹内政裕)

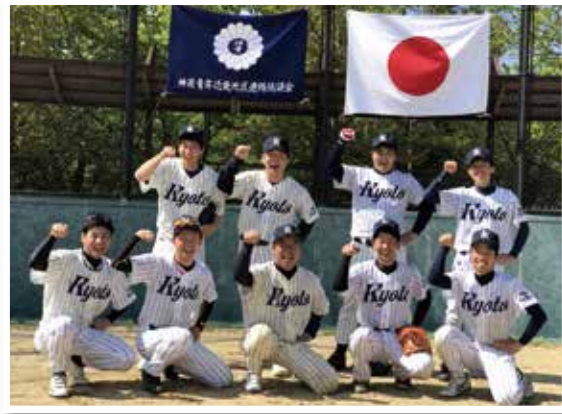


神道青年近畿地区連絡協議会 平成二十九年年度野球大会

五月十日、あじさいスタジアム北神戸にて例年より一か月早く、野球を愛する男達の熱い夏がやってきた。

今年も橋本・宮崎両投手を擁する昨年優勝の奈良県神青、同じく準優勝の大阪府神青、さらに今年こそはと優勝を狙うべく兵庫・滋賀・京都・和歌山の各チームがこの地に集まった。

当会野球部は今年、高松監督の勇退に伴い、稲本先輩が新監督に就任。その初陣を勝利で飾るべく臨んだ初戦は、当会県の兵庫県神青。そしてその先には、昨年度大敗を喫した大阪府神青が待っていた。



雪辱を晴らしたいところが、当会は大きな問題を抱えていた。稲本監督を含めて九名という、怪我也弱音も一切許されない状況に追い込まれていた。今ふと思えば、稲本監督は大の野球好き。まさか仕組まれたのか…。冗談はさて置き、初戦。先攻の兵庫県神青に対し、当会の先発は父親になって一回り大きくなった梶会員。初回立ち上がり攻められ先制点

を許す。当会も連続ヒットでチャンスメイク後、林大道会員の三ランホームランで逆転するも、すぐさま同点に追いつかれ苦しい展開が続く。そして最終回、二アウト満塁とし、一打サヨナラの場面で打席に入るのは、八番・稲本監督。惜しくも内野フライに倒れ、同点のまま試合終了。恒例の九対九のジャンケン勝負では、大小島会員、稲本監督、室川会員が連勝し勝利を収めた。先ほどの熱い試合は何だったのかと思える程のあっけない幕切れであった。



続く、二回戦は昨年度の準優勝チーム、因縁の大阪府神青。稲本監督の巧みな采配とルーキー大小島会員の繊細な投球術で相手打線を二回まで無失点に抑える。当会は相手守備陣のエラーを誘い、一点を先制。さらに五番・川村会員などの連続長打でこの一回、二挙五点を先制。その後二点を奪われるものの、リリーフで登板した林大道会員・稲本監督のバッテリーは付け入る隙を与えず、二対五で昨年度の雪辱を晴らした。残すは決勝。そこに待っていたのは昨年度の王者・奈良県神青。初回、先攻の奈良県神青が一点先制。ふと気付くと人影のなはず



のベンチに威圧感のあるサングラス姿、梶 道嗣先輩の姿勢があった。二回表、ランナー二人を置いて八番稲本監督。三塁線への緩いゴロの間に一人生還し、一点を返す。さらにランナー二・三塁で、ここまでノーヒットの九番・宮田会員。本人曰く、「振ったら当たった」という長嶋茂雄的な打球は、レフトを越える長打、まさに値千金とも言える一発を放ち

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
奈	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
京	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5

に、昨年度の王者・奈良県神青より優勝旗を奪還し、京都府神青の復活を告げる近畿地区連絡協議会野球大会であった。

(北野天満宮 川村亮滋)

逆転。三回表、この状況を奈良県神青は黙って見過ごさず同点に。三回裏の攻撃、先程の宮田会員の一発が効いたのか、奈良県神青先発橋本投手が降板。リリーフに昨年の優勝投手・宮崎君を投入し、奈良県神青も本腰を入れる面白い展開になってきた。しかし、先頭の四番・大小島会員のヒットを口火にエラーを誘い、六番・梶会員、また八番・稲本監督のヒットで二点を追加し、昨年度の王者にリード。

そして五回裏、七番・進藤会員・八番・稲本監督の連続安打で追加点を奪い、ダメ押しチャンスに九番・宮田会員。誰もが先程の一発は偶然だと思っていたが、彼の振り抜いた打球はまたもやレフト線への長打となり、試合を決定付ける会心の一打。三対八と当会リードのまま最終回、あとが無くなった奈良県神青だが、大小島会員・稲本監



督バッテリーの前にどうする事もできず、無得点で試合終了。四年ぶりの優勝を成し遂げたナインは、全員マウンドに駆け寄り、その喜びを爆発させた。九名という状況の中、梶先輩の激励、一人一人の個性を活かす稲本監督の華麗なゲーム采配、ムードメーカー・湯浅会員の常にチーム状況を把握したアドバイス等、チーム二丸となり勝利に繋がった。前回の優勝より四年が経ち、昨年は五位に終わった京都府神青。稲本監督の初陣

近畿地区連絡協議会 第三回役員会・第二回連絡会

去る十二月十一日、午後四時より生田神社会館に於いて神道青年近畿地区連絡協議会第二回連絡会並びに研修会、懇親会が開催された。

連絡会では開会の辞から始まり、当番府県会長である兵庫県神道青年会三星会長による挨拶より始まり、中央報告、神青協特別委員会報告、近畿地区事業委員会報告、各単位会活動報告が行われ、神道青年の歌「美はしき山河」を皆で斉唱して幕を閉じた。

次いで行われた研修会は同会場で開催され、戦後問題ジャーナリストとしてご活躍中の佐波優子先生をお招きし、『憲法九条だけではない国防の落とし穴／皇国の安寧を守り抜くために我々ができる事』と題したご講演を賜った。佐波先生は平成二十年から陸上自衛隊予備自衛官補として教育訓練に励み、平成二十二年に予備自衛官二等陸士に任命され、現在は陸士長の階級をお持ちになっており、そのようなご経験をされたからこそ話すことができるご講話は我々青年神職にとつても心に残るようなお話であった。その中でも「神社という場所はその地域にとつて精神的支柱であつて、神社を守りたい、つまり地域を守りたいということが国を守りたいということに繋がります、それが国防なのではないか」という民間防衛の話が一番印象に残り、国防に対して我々青年神職においても、一般の方々においても考えなければならぬのではないかと改めて感じた。

その後の懇親会ではご講演賜った佐波優子先生にも同席して頂き、



近畿地区連絡協議会 第三回連絡会並びに地区研修会

神道青年近畿地区連絡協議会 田中会長の挨拶に続いて、本日の会場を提供して下さった木田権宮司様による来賓挨拶、神道青年近畿地区連絡協議会の顧問である別所敬介様のご乾杯の発声により、懇親会が幕を開けた。普段接する機会のない他府県の青年神職同士が「近畿は一つ」という思いを持ち、時間を忘れて熱く語り合い、終始笑顔で溢れる中で幕を閉じた。

(石清水八幡宮 私市靖)

姫路キャッスルグランヴィリオホテルにて神道青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会並びに研修会が三月十三日(二日目)に開催された。当会からは六人部会長を始め七名が出席した。

連絡会では各単位会の会長による活動報告がなされた。その後、「ドローンで見ると日本の美」と題した研修会が行われ、空撮アーティストの前田太陽先生からご講演を

賜った。実際に先生が今までに撮られた映像を鑑賞させていただき、ドローンについての様々なお話し、また映像の美しさもさることながら高度を上げる事でより知らない世界が見えてくるのだと感じた。最後の先生の「映像はいつれ忘れられてしまう。いかに記憶を残し色あせない今を後世に残していけるかをこれからも考えていきたい」との言葉に我々神主も後世に正しい考え方を伝え、日本人としての誇りと尊厳を守っていかなければいけないと再認識した。

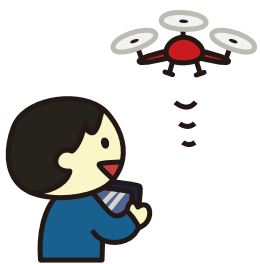
懇親会では、久しぶりに顔を合わせた会員やまた見慣れた会員との時間を過ごし、盛況の中、幕を閉じた。そして翌日の地区研修会(二日目)へと期待を膨らませつつ各々宿泊施設へと帰路についた。

(平安神宮 生寫和顕)

去る三月十三日、姫路キャッスルグランヴィリオホテルにて神道

青年近畿地区連絡協議会第三回連絡会、翌十四日には地区研修会が開催された。

十三日の第三回連絡会に於いては、近畿地区各府県の神道青年会の活動内容報告があり、次に行



われた研修会では、空撮アーティストの前田太陽先生による「ドローンで見ると日本の美」と題したご講演を賜った。ご講演は、空撮についてや撮影した映像、実際に使われるドローンの説明・実演などをして頂き、普段関わる事の少ない世界を知る貴重な機会となった。



その後、懇親会では、他府県の会員と親睦を深め閉会となった。翌十四日の地区研修会では、姫路城の見学し、限られた時間ではあったが、天守閣までガイドさんによる案内で姫路の方でも知らないポイント等まで教えて頂いた。その後、映画「ラストサムライ」を始めロケ地としても撮影によく使われる書寫山圓教寺に移動、昼食に精進料理を体験し、境内を案内していただき、研修会は閉会となった。

今回、二日間に亘って開催された第三回連絡会並地区研修会。他府県との交流の大切さを学ぶことができ、とても充実した二日間であった。

(石清水八幡宮 西館徳史)



中央報告

東北六県神道青年協議会主催 東日本大震災物故者慰霊祭 並びに復興祈願祭



三月十一日に岩手県下閉伊郡山田漁港にて斎行された東日本大震災物故者慰霊祭並びに復興祈願祭に神道青年全国協議会理として参列してまいりました。

時間を少し遡ること平成二十四年三月十日、神青協主催による東日本大震災物故者慰霊祭にも参列し、その時の斎場は岩手県釜石市根浜海岸でした。当時は震災発生から約一年、斎場に向け移動していると、学校の三階の窓にバスが突き刺さっているなど凡そ現実のものとは思えず、筆舌に尽くし難いその光景は衝撃と恐怖で今でも脳裏に強烈に焼き付いています。それから六年が経過し、岩手県盛岡市内などは復興の兆しが目に



見えるまでになっていましたが、地域によって復興の差異があり、祭典斎場へ近づくにつれ仮設住宅や更地のまま放置された場所がある等、まだまだ震災の爪痕を容易に見つけることができます。震災発生時刻、三月十一日午後二時四十六分。被災地の方々にとって震災発生時刻は万感胸に迫る時であろうとことから、祭典の開催時刻は午前十一時。神青会員や地元元人など約百八十人が参列する中、黙祷・大祓詞奉唱等肅々と次第が執り行われ、神楽奉奏の際、地元小学生四人による「浦安の舞」が奉納されました。ふと六年前岩手県で見た光景と児童たちの姿を重ね合わせ、被災された方々がこの祭典にどのような思いで参列されているのかを想像すると、胸が熱くなり六年前とは違った意味で脳裏に焼き付けることができました。

祭典終了後、東北六県神道青年協議会藤原会長は挨拶で「私たちは今をより良くして、未来に繋いでいく責任がある」と述べられました。帰京のため同日午後二時五十分、列車にて現地を離れました。震災発生時刻少し前に黙祷を促すアナウンスが盛岡駅構内に流れ、一人静かに黙祷を捧げ、震災の記憶を風化させてはならぬとの思いを

一層強め、未来をより良くするため今という瞬間に力を注ぐことを決意し、被災地の一日も早い復興を祈願したのでした。

(石清水八幡宮 浄見僚)

神道青年全国協議会「中央研修会」

三月六日、慣れない長旅に慣れない乗り換えに虫の息になりながら、私は神道青年会全国協議会中央研修会に参加する為、九州に上陸した。

こんにちは長崎。

今回の研修会の主題は「地方創生」。三分おきに電車が来る東京で育った私には今回の主題は心に刺さるものがあった。

ハウステンボス内「ゲルックホール」で開会式が恙無く行われ、引き続き講義が始まった。人口減少と少子高齢化により過疎化が進み、限界集落が増え続ける中で、「皆さんにとっても無関係な事ではない」と、全国各地より出席した青年神職約三百五十名が、第一講石破茂先生のご講演に耳を傾けた。思えば今まで「過疎化を放置すれば国が減る」と示されたことはなかったように思う。「地方創生は他人事ではない」とこか無関心で過ごしてきた自分がたたき起こされた心地で、石破先生のご講演を拝聴した。

第三講は「今を生きる」という主題で高田明先生からご講演を賜った。未来を変える、未来に向かって確実に歩むためにはどうすればいいのか、何が必要なのか。それはまさに「今を生きる」こと。数ヶ月先を見るよりも先ず、自分が今やらなければいけないことを全力で

行う。

そのためには、相手に物事を伝えることが重要であり、決して伝えた「つもり」ではない、ということ。身振り手振りだけでなく、

相手との話の間の取り方など「非言語の力」を掴む事が、相手に何かを伝える上で重要であると教えて頂いた。

自分の足下に目を向けることが重要。未来は今の延長。今を大事に、悔いの無いように生きているのが大事なのだと感じた。今ある日本を次の世代に繋ぐことが今を生きる私たちの役目だと思う。

『未来は今の延長だ。だからこそ、今を大事に、悔いの無いように。』私は今回の中央研修会で学んだことを、心に刻み、新幹線に乗る前、悔いの無いよう明太子を買い込み長崎の地を後にした。

(平安神宮 藤田敦士)

